

・雨でも休まず、201回、202回、・

## 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

### 臨時活動・定例活動

- ・11月 3日(祭日・文化の日):小原町本陣祭り、町内会より「応援求む」の要請
- ・11月 4日(第一土曜日)定例活動(小原本陣の森):担い手育成、参加費400円

### 定例活動(若柳嵐山の森):里山交流・多様な森:参加費400円

- ・11月19日(第三日曜日)初参加者は「緑のダム1日体験学校」参加費1000円  
森林の基礎知識・危険対策などを学習します・・・2回目からは400円

- ・9時15分までにJR相模湖駅前集合、小原の森は、相乗りで向かう。
- ・服装:汚れても良い服装(夏は黒色は駄目)、着替え、長袖・長ズボン・滑らない足元
- ・持参:なるべく皮製軍手、万一の怪我に備えて保険証、弁当・食器(碗・箸)、飲料水

\* 注意事項:危険管理・救急体制:森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

## 1年経過した・・・FSC 認証の森

昨年10月にわが国では23番目の「FSC 認証:若柳嵐山の森」の管理者となった。市民団体では始めてである。1年経過した森は、どう変わったか。活動の運営方法も見直す時期に来ている。それを確認しようと9月30日(第五土曜日)に臨時の運営会を開いた。定例活動日でもないのに定刻の午後3時には、茨城・千葉・東京・神奈川と首都圏一円から28人が集まって、駅前:桂北公民館の会議室は満杯、予備の椅子まで準備した。今月は、その議事録を同封するが、何でも無い発言の中に珠玉のような言葉がある。

10月15日の定例活動日には、東海大・日大・麻布大・東海大付属望星高校の学生が49人も集まった。森林資源科で学ぶ学生が多く、毎木調査・植生調査のために3班に分けて平地林に入った。見晴らしの良い上の林道から、1年掛けて進めてきて美しくなった森を見下ろすと、緑の陽光の差し込む林内で学生たちが、嬉々として学んでいる姿に神々しいものを感じた。

この日の参加者数は100人を越えたが、半数以上が青年たち。「ああ、これが、市民団体の取り組むFSC 認証の森林活動だ!」と感無量。この中から後世を継ぐ人が出てくることを確信した。

世界的高レベル・認証第一号の速水林業に比べるべくも無いが、別の意味でここは、世界に例の無い森林活動に成長しつつある。

## 活動報告1：小原本陣の森（担い手育成・技術向上の森）：11月7日（第一土曜日）

数日、雨気味の半端な天気模様が続くせいか、参加申し込みも今年最低の17名。飛び込み2名。雨でも休まずとは云いながら、ヤッパ、雨は駄目か。明けて当日朝、天候は見る見る好転。

小原の森初参加の柳橋君がくるので駅に迎えに行った。

エッ!、アッ!、桜井さん?(日大教授)、「やあ、お世話になります、学生15人、連れてきました」。初心者、小原の森には入れないと言っておいたのに・・・、ま、来たものは歓迎。

で参加者数は今年最高の34人。(以下、園田隊長から活動日の翌日、8日に来たMLを紹介する)。

昨日は良い天気でした。ただ、小原の森広場は暗くて、作業が終わって下においたら「こんなに良い天気だったのか」と思うくらい。

さて、昨日は突然、日大の学生さんが15人参加と言うことになり、チョット戸惑いました。ここで再度、確認しておきます。小原の森の内々のテーマとしては、  
1) 地域の人たちとやれるようになりたい。  
2) それぞれの参加者が少しずつでも森林技術を身に付けていく・・・と言うことでした。



その意味では、突然の15人には、参りました。初心者でも構わないのですが、兎も角、持続的に参加して、それなりに技術を身に付けようと思ふ人たちが基本です。そうしないと、また自分のことはそっちのけで「初心者の面倒見ばかり」と言うストレスがたまると言うことになりますから。だから、体験したいという人は嵐山、と言う位置づけを、ハッキリしておきましょう。

具体的に日大の学生さんたちの対応としては・・・、

- 1) 継続的にやろうというのであれば、年間の実習プログラムを組まないか。
- 2) 日帰り体験活動的なもので15人以上の人数だったら、特別枠で対応するから事前に相談して欲しい。石村さん、桜井先生の相談してみてください。(以上、園田隊長からのML)。

9年前からお付き合いのある間柄で、桜井先生が7月、初めて顔を出されたその瞬間に、一緒にしましょうと目と目で了解が出来ている。

7日、小原の森：急斜面の凄い藪の藪刈りは、若い力で一気に明るく視界が開けた。 石村記

またまた100人超えっ！参加者の多さに、嵐山の基地も「狭っ！」と感じる。今回は、幾つものグループの参加があった。相模原商工会議所の皆さん、大手町のイベントの翌日に寄ってくれた北海道からの皆さん、そして、望星高校・東海大学・日本大学・麻布大学の高校生、大学生の皆さん。「若っ！」参加者の平均年齢がググッと若返りました。

- ・ 森林整備班の午前中の作業前に、購入した「チルホール」と言う道具を使っての間伐デモンストレーション。人力では難しい力加減、相当なパワーを必要とするところもジャッキみたいに利用して、いとも簡単に引っ張ってしまう。架線側等、これからの作業に大活躍をしそうです。ボサ刈りでは、学生対抗戦勃発か!?, 望星高校 VS 東海大学 VS 日本大学の若いパワーであつと言う間に、鬱蒼としたモサモサ地区がサッパリ地区に変化した。
- ・ お花畑での草刈。ボサ刈りとはまた違う感じ、空は見えても腰を伸縮しての作業がなかなかしんどそう。でも、こちらも、モサモサ - さっぱり。
- ・ モマ工房もフル回転。午後からは、高校生が「望星の森看板」を作るとの事、6センチの厚さの板にするためチェーンソーで挽く。なかなか筋がいいんだなあ～!、完成品はHPをご覧ください。山からの材搬出装置TCの改良も重ねられ、お披露目があった。



相模原商工会議所の皆さん

そうそう、参加者100人超えのお昼は、分量・配分がかなり大事。鍋奉行班の完璧な采配を拝見させて頂きました。天晴れ！。

フィールド会議：10月15日、活動終了後。

報告 山本晶子

1) 森林整備班：年間活動予定

- ・ 来月11月～来年1月位までボサ刈り：望星の森、通称白石橋辺りから、辺りを見回して「きれいだな」と思えるようにする。
- ・ ～4月の植樹に向けて、望星の森を手入れ。
- ・ ～6月、範囲によっては8月迄、蔓切り。
  - \* ボサ刈りは【生態系保全】を考慮して6割作業を目処に、やたらに刈らない。
- ・ 間伐部隊：架線の両サイドをメインにチルホールを使っての作業を実施。その後は数班に分かれ、山の中を随時、間伐実施。

2) お昼の汁物提供に関して  
すずこママの体力的なことからも、お任せしていた汁物を今後続けて行くかどうか。

ただ、これから寒くなるので3月まで継続。それ以降に関しては、現段階では流動的。

(今後、要検討)

3) 嵐山のイラストマップ：エリヤ道の呼び名の公募。

共通の分かりやすい呼び名をつけてはどうか - すぐには、思い浮かばないのでHPに掲示し、10月末期限とし募集する。

\*決定権はマップ作成関係者に委ねる。



日本大学生の植生調査、新しい発見・学説も期待できる。

### 引き続き・・・運営会議

議題：神奈川県との協働事業：「かながわボランティア基金21」に関して今回は概念を知り、事業の理解を深めることを趣旨とする。

活動：この活動は、双方合意の下、神奈川県との対等なパートナーシップ協定により役割分担して取り組む。

- ・神奈川県は活動資金を提供し、「森林NPO 緑のダム北相模」は、
  - 1) 森をつくる（森林整備・生態系保全）、
  - 2) 森と都市をつなぐ（緑のダム体験学校、甲州古道復活）、
  - 3) 森をいかす（流域材活用、森林広報）を推進する。
- ・5年契約、県から年間500万円の補助金が出ている。今年は2年目。  
費用が適正に執行されているか、四半期ごとに監査が入る。  
尚、当会の本年の活動総予算は、13,102千円。
- ・次の運営会議で事業の内容を確認する。

今後：契約が終了する平成22年度以降の活動資金の準備が必要である。

### 若柳嵐山の森を訪ねて

投稿：NPO 法人ウヨロ環境トラスト  
(北海道・白老町) 辻 昌秀

若柳嵐山の森には平成13年11月に初参加して今回は5年目・2回目の訪問になります。初回は手鋸で杉間伐をしましたが、この間、FSCの認証を緑のダム北相模が受けたこと、最近、高付加価値の大径木の出荷に取り組んだことなどのお話を聞き、NPOとしてレベルの高さに感心し敬意を評します。また、若柳嵐山の森林は、相模原商工会議所の皆さんや、東京農大田中先生など多くの方々と交流できたことは大変意義深いものがありました。今後も機会がありましたら、

皆さんと交流できれば幸いです。

私どものウヨロ環境トラストは、2,2haの樹齢40年のカラマツ林を所有し、その周辺の8,8haの民有林の管理をしています。全国的に民有林の手入れが進んでいませんが、森林整備に寄与したいという思いは、緑のダム北相模と共通のものがああります。

## 1 <sup>かえ</sup>サケが還るウヨロ川

ホロホロ山麓から流れる自然豊かな川

胆振管内最高峰のホロホロ山山麓の湿原を水源とし、太平洋に注ぐ水質良好な流路延長18.8km、流域面積61.2km<sup>2</sup>の二級河川です。1965年から70年にかけて、ショートカットを中心とする河川改修が行われ、下流部の左岸には自然豊かな三日月湖が何箇所も残されています。



今回の東京訪問の目的は、私どもの主催する「北の里山保全ボランティア体験会」のPRで前日は、大手町での「ふるさと回帰フェア」でもPRしてきました。

この体験会は、移住希望者を含めた首都圏、札幌圏の都市住民を対象に10月と11月の2回実施するもので、当日の午前中は里山保全活動、午後は手づくりの歩道ウヨロ川フットパスからサケの遡上を見学します。また、希望者には前日または翌日に移住下調べとして地域の案内をいたします。この体験会の案内は事務局の石村さんのところに置いてありますので、関心のある方は遠方ですがぜひご参加を検討ください。

以下、報告は前後するが9月30日開催とは、また緊急と名付けてオドロオドロしい召集で、定例活動日でもないのに茨城・千葉・東京・神奈川と首都圏一円から28名の熱心な森林仲間が集まった。

**報告：緊急運営会議：9月30日第五土曜日、15～19時、JR相模湖駅隣・桂北公民館**

議題は、1、FSC認証取得後1年目を総括する。2、緑のダム北相模の運営組織見直し・・・という課題で、緊急運営会議は、極めて楽しく・面白く・途中、「緊急動議!、トイレタイム!」の声の飛び出す程の白熱、有意義な検討会となった。

活動10年の節目に活動の見直しをしようと言う趣旨。組織運営は今後、「若柳嵐山の森」活動終了後、「ムササビ亭・終りの会」で話し合いながら、更なる発展を期して進めることを採択して閉会した。

議事録を別紙に報告。

木づかいシンポジウム2006 in 神奈川 報告：緑のダム北鎌倉 兼松まゆみ

先日、10月13日～15日、神奈川「木づかいフェア」が、産業貿易センタービルで開催されました。この催しに我々も参加要請を県環境農政部森林課から頂いたのですが、15日の「木

## 活動アンケート第7回：間伐材の活用

FSCは、問題があれば解決することを求めている。そこで当会活動のどこに問題があるかアンケートを行った。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年6月までの全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今回は間伐材の活用についての質問に答える。回答に対する疑問・意見・反論、忌憚のない・異論を提供されたい。(この回答欄は、認証機関SGSの認証条件になっている)。

**質問：**林内の間伐材のうち、林道に近いものは適時搬出し、二次加工に使用されているが、奥にある物は多く放置されている。これが良い方法で搬出できれば材での活用、地域での貢献も大きくなるだろう(正会員)

**回答：**この森林での最初の頃5年前、「捨間伐」と言う方法が流行っていて、伐り倒したままにしていました。捨間伐が流行った理由は、密生して暗くなった林床は下草が生えず、土も流れ出すから一々、整理している暇がないということでした。

捨間伐の森林はゴミ捨て場のような印象で森林NPOとしては「何か、チョット違うな」の想いがありました。その後、やはりキチンと土止めに使うなり、用途を探すなりの方向に変わりました。ご質問の「良い方法で搬出できないか」について以下のような経過になっています。

最初は、鳶口を使って力任せに引きずり出していましたが、危険で余りに非効率で「引っ張りだこ」と言うエンジン式の搬出機を使いました。これは長距離には不向きで効率悪く、常時、使うという訳にも行かずです。

一昨年秋にNPO法人環境資源保全研究会の吉田さんがWS(ウッドシューター)と言う火災脱出用布製シューターを持ち込んできたのでテストしてみました。課題を多く残しましたが、吉田さんに協力する石綿産業(石綿社長)が、これに改良を加え、TC(テープシュート：写真)を考案しました。右の写真は更に改良を加えたものですが、軽々・スイスイ運べます。グンと良くなりもう一歩と言う感じです。これに最大限に協力したのが緑のダム・富沢仲間ですが、ボランティア活動の柔軟で自由な発想は、思いがけない発明・発見に繋がっています。また今月、危険な伐採を安全に作業するチルホールと言う新機材を入れました。これらを組み合わせれば随分と楽に搬出できるでしょう。

先月号で写真でも報告していますが、杉巨木林から3.5tトレラーで約22立米を6月に搬出しました。これは、プロの東林業さんをお願いしましたが東林業は、これを2月25日(伐倒)と6月27日(搬出)のたった2日間で済ませてしまいました。プロとアマの力量・技術の差をマジマジと見せ付けられました。これは、製材して建具組合他に買ってもらいましたが、森林所有者の鈴木さんにキッチリと原木代金が払えます。成功事例を積み上げて投稿者の期待に応えるように努力します。



林床を傷めず材を搬出する仕組みに吉田さん・石渡さん・富沢さんが取り組んだ。完成も近い予感。

・・異変が起きている相模湖・・

富栄養化で相模湖のアオコの大量発生は日常的になっているが、こんな真っ青な相模湖は、始めて見た。専門家に送って調べて貰ったら田んぼで発生する「青浮き草」とのこと。

好天気続きで上流の田んぼから流れてきた風でも無し、企業庁に聞いたら分からないとの返事であった。

山梨県も神奈川県も、もっと気を入れて水源環境に取り組みないと臍を噛む事になる。



お詫びして訂正：先月号記事（神奈川県：林業行政とのキッカケ・経過・現在）内容

先月号で、神奈川県・林務課の「高梨さん」と書いたが、「高科さん」の間違い。3人の方から訂正のご連絡を頂いた。お詫びして訂正する。高科さんを偲ぶその通信の一部を抜粋し紹介する。

・前文略：毎回、楽しく読ませて頂いております。今回、その中に神奈川県の高科君の話が入っており、大変なつかしく思っております。彼とは大学も同窓と言う面もあり、県庁のブロック会議など、熱く林業を語ったことを思い出しました：後文略：山梨県・森林環境部勤務、T氏

・前文略：私もかつて二年ほど、一緒に仕事をしたことがあります。文中に彼の人柄を直接的に語る言葉はありませんが行間には漂っており、まさにそのような人でした。懐かしいばかりでなく今だに、ある種の喪失感を感じております：後文略：かながわ森林づくり公社勤務、K氏

こうして今だに忘れられない高科さんを思うにつけ、森を守ろうとした沢山の先達のいたことを思い出し、更なる努力を重ねて森林を守り通す決意を促されるのだ。 石村記

\* 執筆者の鈴木直子設計士が多忙で「木を使うこと、森をまもること」は今月、お休みします。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず。ポチポチと・・・。

そして、沢山の参加で森はよくなる。

名称：さがみ湖・森づくりの会：NPO法人緑のダム北相模・森林部会

事務局：154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人：石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

HP：<http://midorinogam.jp>

E-mail：[moritomo@rk9.so-net.ne.jp](mailto:moritomo@rk9.so-net.ne.jp)

協働団体：神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部)、

ご支援団体：WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニテイ